

## ＼鶴岡市福栄地域のみなさんに協力隊について聞いてみました／



### 【福栄地域について】

「福栄」は山形県鶴岡市南部、日本海にそそぐ4つの清流（五十川、温海川、小国川、鼠ヶ関川）の上流部に開けた山里です。北から菅野代、温海川、木野俣、越沢、関川の5つの集落が点在しています。



福栄地域協議会「福の里」HP「福栄しょ」HP より

自己紹介をお願いします。



### 五十嵐 正直さん（木野俣いきいき隊代表）

「木野俣いきいき隊」とは

地域コミュニティの推進、地域資源を生かした高齢者の生きがいづくり、生活環境の整備といった地域課題に取り組む主体として 2011 年に設立。木野俣集落センターを拠点に活動している。

生まれてこの方ずっと木野俣にいます。ここの地域のいいところ……考えてみても、あまりありません。悪いところは、いっぱいあります。雪は約2m積もります。9月下旬ころから天気が良くなると、カメムシがいっぱい出ます。逆にその辺が好きなのところでもあります。人はいなくなりますが、これはやむを得ないと思います。住んでいる人が楽しめる元気な村にどうやってしていくかということを、日頃寝ないで考えています。皆さんからいろいろ取り入れながら、住んでいてよかったなと思える地域にしていきたいと思っています。

好きな食べ物は、何でも好きですが、ピーマンが嫌いです。年配になってくると、肉類よりも、地元でとれる山菜みたいなものが好きです。



### 大滝 徹さん（木野俣自治会 会長）

生まれも育ちも木野俣ですが、途中 11 年くらい木野俣を離れていました。その間に結婚して母ちゃん（真砂代さん）を連れて帰ってきました。それからずっとここで暮らしています。私は非農家なので、田んぼも畑もありません。この地に住んでいるのに畑のものを食べられないのはもったいないと思い、小さな畑を耕して、自分で作ったものを食べるようにしています。夏から秋にかけて買う野菜はほとんどありません。年々地域から人が減り、年老いた人たちだけで地域を維持するのは、冬の暮らしのことを考えると不安になります。逆に、雪が解けて山菜の季節になってくると、ここはいい所だと思います。紅葉もきれいです。ただ、冬をどのように工夫して暮らせるか、生活の知恵を出し合って、何とか頑張っていかないといけないのかなと思います。



大滝 真砂代さん（大滝会長の奥様）

北海道出身、木野侯にきて47年くらいになります。ここに来た当初は言葉がわからない、習慣もわからない、文化もわからない。何もわからない中で男の子3人を育てて、季節の移り変わりを感じ、子供たちもそれぞれ家を出て、今は主人と二人で生活しています。その中でいいなと思うのは、私は食いしん坊なもので、山菜です。シドケとかウドとか。秋になるとキノコが出てきますし、山の自然のものに関しては食べることに事欠かないです。十二分に満喫しながら台所に立って、黙々と食べています。そういうところがいいなと、常々思います。困ることは、カメムシです。顔にぶつかるくらい発生率の多いところなんです。洗濯物を干しても、一枚ずつ、「入ってないかなあ？」と見て。ひと手間かかります。やっかいものだなあと思います。あとは、この地域はおそばもとれるので、大好きです。毎年季節が巡ってくるのが楽しみです。



古舘 由隆さん  
(福栄地区地域おこし協力隊)

地域で活動中の協力隊員にもご参加いただきました。

## 地域おこし協力隊と一緒にどんな活動をしてきましたか？



今まで協力隊は6名来ていて、現在は2名います。福祉関係とか、特産品開発とか、医療とか、地域の中で課題だと感じているものを担ってもらいました。地元としても効果が見えるし、協力隊の方々もそれなりに動けたと思います。何とか協力隊のみなさんがここに残ってもらえるように一緒に仕掛けをしていきたいなと思っています。3年間が無駄にならないようにしてほしい。必ずしも満足のいく支援はできていないかもしれませんが、そういうつもりでやっています。



福栄地域には医療機関がないので、ここに「健康相談室」という形で月2回先生が来て診てもらおうことになりました。あとは買い物難民の対策。若い人はみんな鶴岡とか酒田の町に行って買い物をするけど、年老いた方は簡単には出られないわけです。それも協力隊員が一生懸命努力をされて、月水金に移動販売車が来るようになりました。



協力隊員は、木野俣集落センターに事務所を構えているけども、ここ福栄地域では5つの集落が活動地になっています。他集落に足をのばしてそこからいろんなものを得る、または与える。あるいは情報発信をしていくことによって、違った意見が出てくるのではないかなと思っています。



地域と協力隊の関係性についての下地は、最初に赴任した先輩隊員達が作ってくれていたもので、地域のことをまだ知らない私に対して、じゃあ何をさせたらいいのかと地域の方々から声をかけてくれました。私も能天気人間なもので、おしゃべりをしたり、お母さんたちと一緒に作業をしたり。それ自体がすでに楽しかった。そういった意味ではすごく感謝しています。

### 受け入れ側の地域として心掛けていることはありますか？



協力隊は地域づくりのパートナーなんだから、地域側が課題を考えて、協力隊と一緒に活動をしたらいいと思う。地域の住民が何もしないで、協力隊が来てから「この村の振興策を考えてくれ」って言うても無理がある。ずっと住んでいる人が地域の課題がわからないのに、ヨソから来た協力隊がすぐにわかるわけがないのだから。



協力隊員は「この地域はこうした方がもっと良くなるのではないかと」気付くことがあると思うんです。ここに何十年も住んでいると何も見えなくなる。だから、見た瞬間に気付いたことを教えてもらえると非常に助かります。



やっぱり一緒に動きながら地域の課題を見つけてもらいたいと思う。古舘君から、例えば「こんなところジョロ（カメムシ）いてダメだ」なんていきなり言われたとしたら、私はムカッとくる。「ジョロなんて友達だ」って言いたくなる。地域住民が長年どうしようもできなかったことを、赴任したばかりの協力隊員が「ここが課題です」なんていうのは、遠慮もあって言えない。古舘君、温海川（古舘さんの住む地域）はここを直した方がいいよって、会長に言えないよな？



そうですね(笑)

最初は、住んでいる方と違う視点をもって地域に来るんです。最初のうちは、「ああした方がいい」とか、「こうした方がいい」って思うんです。ただ「住んでいる人にとってどうなのか」という視点は、来た当初は確実に抜けています。それを埋めていくのが、地域の人と話したり交流したりすることかと。その中で、地域で暮らす人はこう思っているんだ、と気づいてくる。そして2年目3年目で考え方が変わってくるわけです。そこに

たどり着くと、協力隊としていい仕事ができるようになるんじゃないかなって。そこまでを見守っていただけると、協力隊もやりやすくだろうし、福栄はそういった意味では活動しやすい場所かなって思います。

### 特に思い出に残る活動はありますか？



私は2つあります。1つは、廃校になった学校で養蚕活動をしたこと。生まれて初めて蚕を見て、エサをあげて、お手伝いをさせてもらいました。なんとも言えない気持ちではあったけど、皇后さまになった気持ちでお手伝いをさせてもらいました。もう1つは、4年程前になりますが、協力隊の方々と2泊3日で東京の国立の方に物販に行く経験をさせてもらいました。春でしたので、山菜や山菜を加工したものを運んで行って、楽しい経験をさせてもらいました。協力隊の方が来なければ、こんなに気持ちの踊る、うきうきするようなことはなかったと思います。若い人との対話を楽しみながら、そういう経験ができたのは協力隊が山間部に来てくれたからかなと思います。あと、ちょっとよこしまな気持ちを言えば、人口を増やしてくれたらいいなと思います。

### 今地域に子供たちは何人くらいいるのですか？



今小学生は2人で中学生が2人。  
スクールバスで学校に通っている。



にわとりが先か卵が先かっていう話がある。人が居なくなるから学校がなくなるのか、学校がないから人がいないのか。これが悪い相乗効果になって人が減っていく。残ったのはみんなじじばばだ(笑)。

でもおかげさまで、まもなく世帯数が2戸増えそうだということを知った。2戸増えるというのは画期的なことです。もう少し活動していくと2戸が3戸になって、3戸が4戸になっていく可能性がある。10万人なんていない。ここならあと100人も増えたら精いっぱい。その100人を協力隊のみなさんを通じて情報発信して呼んでもらえるといいな。雪のあるときは来なくてもいいから、夏だけでも来て一緒に畑とか田んぼをしてもらって。



冬は雪のない暖かいところに帰る。夏だけでもここでデスクワークしてもらえれば。こちら辺の空き家って、一軒一軒が大きいんです。もう少しこじんまりしているといいんですけどね。



今東京の方でも、地方に住みたいという人が多いようですが、こっちだと、やっぱり雪の季節の心配がある。だから夏はこっちで、冬は関東とか、そういう二拠点生活でもいいので来てくれるとすごくありがたいですね。

## 今後地域でチャレンジしていきたいことはありますか？



風通しのいい集落づくりをしていきたい。新潟方面からも鶴岡方面からも人が流れて、車が来る。そういう人の流れを捕まえて、山菜を販売したり、食堂を作ったりしたいです。



私は、死ぬときに、「ここで死んで良かった」と思える村にしたい。そのためには今どうするかってことなただけど。若い人に期待しても、居ないからどうにもならない。だから、年寄りをうまく活かして、「年金プラス1日1000円」で、月3万円になるように取り組んでいるんだけど、まだまだとても話にならない。今、とある公共施設が空きそうなので、そこを使って、福栄の特産物を食べさせる食堂を企画している。そこを使って、何ができるか考えたい。例えば、この地域にはいろんなものがあるんです。越沢の蕎麦とか、べろべろ餅とか、笹巻とか栃餅とか。できれば5集落の食べ物を、ヨソから買ったものはなしで食べさせたい。それに加えて、ばあさんたちに現地の言葉で食べ物の説明をしてもらおう。猟師もいるからジビエ料理とかもいいね。



協力隊の強みって、福栄地域の5集落全てに出入りしやすいっていうのがあると思うんです。集落に住んでいる人たちって、個人的なつながりで他集落の人と何かするっていうのが大変というか、あまり交流が無いので。そういうのを飛び越えやすいのが協力隊の立ち位置なのかなって。そういうのを生かした食堂ができたらいいなって思います。



山のものや、自然の食材に精通しているような人に協力隊として来てもらうのもいい方法かもしれないね。山に住んでいる人たちが見逃しがちなところに着眼できるんじゃないかなと思います。

## 編集後記



終始笑いのとまらないインタビューでした。地域住民それぞれが、それぞれの立場で地域のことを考え、協力隊と関わりながら未来を想い描いている、そんな印象を受けました。理解ある年配者がいてくれる安心感。こんな方々と関わりながら過ごす日々は大変思い出深いものになりそうだなと感じました。

聞き手  
Sukedachi Creative 庄内  
佐久間麻都香